

貸 し 出 し 図 書 (19)

No.	図 書 名	備 考
環-1	<p>【地球環境と人類の生存】</p> <p>1989年 ブックレット21 近藤 次郎 講演、著 創価学会21世紀青年委員会 編</p>	<p>人口増加とエネルギー消費の膨張、二酸化炭素濃度の上昇による温室効果、激減する熱帯雨林、深刻な森林破壊をもたらす酸性雨、これらの環境破壊の原因とプロセスをきわめて平易に解説。</p>
環-2	<p>【地球環境キーワード事典】</p> <p>1990年 155ページ 環境庁長官官房総務課 編集</p>	<p>地球環境問題に取り組み困難に立ち向かう時、力になる正確な知識として参照できる。</p>
環-3	<p>【大気汚染と気候の変化】 人間社会と気候の関係 気象学のプロムナード11</p> <p>1982年 223ページ 原田 朗 著</p>	<p>大気汚染や又その他の大気への働きかけによって大気の状態を変え気候に影響を及ぼし始めている因果関係を説明。</p>
環-4	<p>【地球規模の環境問題(II)】</p> <p>1990年 393ページ 学者・行政・市民らが執筆者 約100名が結集</p>	<p>地球環境問題は21世紀に向かう人類が避けては通れない問題である、なぜならば自然科学的背景のみならず経済、社会、政治、市民生活とのかかわりまで広く視野に入れて著書してある。</p>
環-5	<p>【地球温暖化の対策技術】</p> <p>1990年 324ページ 公害資源研究所 地球環境特別研究室 編</p>	<p>地球環境問題に取り組むに当たり、従来の知識をとりまとめ、さまざまな方面への研究の展開を図るに当たっての基礎を示すという意義を持ったもの。</p>
環-6	<p>【温室効果ガスと地球温暖化】</p> <p>1989年 167ページ 生田 豊朗・茅 陽一 唐沢 正義・田中 紀夫 著</p>	<p>大気環境の問題としてオゾン層の破壊、酸性雨の増加、地球温暖化の三つの要素がありその影響と対策展望について。</p>
環-7	<p>【21世紀の地球環境】 気候と生物圏の未来</p> <p>1987年 NHKブックス 225ページ 高橋 浩一郎・岡本 和人 編著</p>	<p>二酸化炭素濃度の増加、酸性雨、気候変動の生態系に及ぼす影響、核の冬など人類生存にかかわる重要知識の紹介書。</p>

貸 し 出 し 図 書 (20)

No.	図 書 名	備 考
環－ 8	【暮らしの中のゴミ対策】 1990年 228ページ 坂田 龍松 著	都市にまつわる一つの大きな問題としてゴミを取り上げ、処理の主役を担う焼却炉にはどんなものがあるか国内各社の技術成果の紹介。
環－ 9	【病める地球をどう救うか】 第三ミレニアム人類への提言 1989年 203ページ 綿抜 邦彦 監修 世界平和教授アカデミー 編集	6名の高名な方々の執筆により、21世紀における先進国としての日本の世界に対する役割に関して、それぞれの分野を中心として今後の親類の生存に向けて提言している。
環－ 10	【地球環境と人間】 1989年 299ページ 人類とエネルギー研究会 編著	地球環境問題の所在を明らかにし、国際的に議論されていることは、かけがえのない地球を守るために必要なことで責任もある。そのためにこの書が役に立つといえる。
環－ 11	【フロン世界の対応・ 技術の対応】 1989年 256ページ 富永 健・唐沢 正義 鈴木 克憲・石川 延男 森田 昌敏 5名の著	オゾン層保護のため、フロン、オゾン問題を判り易く解説した教養書でオゾン破壊の原因となる化学物質フロンを中心テーマに据え、オゾン破壊のメカニズムと環境影響、国内外の対応策代替フロンの開発などをそれぞれの分野の専門家が執筆した書物。
環－ 12	【環境の限界は技術を超える】 1990年 262ページ 小野田 猛史 著	環境破壊は技術の発展が社会的、政治的な要因で抑制されていることに起因していることを明らかにしている書。
環－ 13	【地球温暖化を防ぐ】 1990年 NHKブックス 230ページ 環境庁(地球温暖化問題研究会) 編	温暖化問題を視点に据え、地球を守るための道を提示する書。
環－ 14	【地球にやさしい生活術】 1990年 206ページ ジョン・シーモア ハーバード・ジラード 著 霜田 栄作 監訳	緑の惑星を守るために、あなたが今日からできること。 ・なぜ浪費全盛の時代にエコロジカルな生活をめざすのか。 ・有機農法は環境にやさしい。 ・地元の産品を大事にしよう 他

貸 し 出 し 図 書 (21)

No.	図 書 名	備 考
環－15	【テラスで読む地球環境読本】 1990年 218ページ 日本経済新聞社 編	フロンガスによるオゾン層破壊。CO ₂ による大気の温暖化、森林の減少・砂漠化…。今、私たちがなすべきことは何か？経済の成長と環境保護は両立し得るのか？
環－16	【地球環境最前線】 1990年 266ページ 朝日新聞「地球環境」 取材班 編	国際シンポジウム(89.11.15～16)「どう守る地球環境－市民活動の役割、討論要旨」を収録。 今、できることは何か。砂漠化・熱帯林減少・海洋汚染、酸性雨、地球の温暖化とオゾン層破壊、そして……。
環－17	【地球環境報告】 1988年 258ページ 石 弘之 著	地球生態系の崩壊は北極から南極成層圏から深海底までとグローバルな範囲で加速度的に進行している。80ヶ国以上を自らの足で調査した著者が最新のデータを折り込み傷ついた地球の現状を訴える。
環－18	【地球環境の政治経済学】 －新グローバリズムと日本－ 1990年 232ページ 環境庁地球経済研究会 著	1990年代は地球の未来を決定する転換の10年である。その転換期に求められる新しい政策、そしてその基礎となる政策科学と哲学を、地球環境を守るための政治経済学として提示している。
環－19	【地球・宇宙・そして人間】 1987年 302ページ 松井 孝典 著	46億年の知的大紀行。広大無辺の宇宙空間に漂う太陽系唯一の青い惑星、地球だけになぜ海が存在し、知的生命、人間が存在するのか、水惑星、地球誕生の起源と進化の謎を解いたトップ・サイエンスの世界をつづる。
環－20	【地球環境用語辞典】 1990年 353ページ E・ゴールド・スミス・編 J・ラブロック他 著 不破 敬一郎 小野 幹雄 監修	第1部～人類自然の秩序、食料援助、チェルノブイリ以後の核エネルギー、人類とガイア説、酸性雨と森林の衰亡、水は飲むのに適しているか？ 第2部～農業の環境保全、エネルギー・生態系の基礎的概念、暮らしといのち－保健法、核、汚染、第三世界について373項目を収録。